

# 2025年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ

## 日本選手団派遣事業 大会報告書



2025年3月8日(土)～3月15日(土)にかけてイタリア共和国のトリノで開催された「2025年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ」へ、スペシャルオリンピックス日本(SON)から選手団56名を派遣し、3月18日(火)に帰国いたしました。日本選手団は7競技に参加し、普段とは違う環境である世界の舞台上で日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。今大会を通じて得た経験や感じた思いをより広く多くの方々に発信し、また新たな目標に向かって進んでいきます。日本選手団への応援を誠にありがとうございました。

### ■ 大会概要

- 大会名称:** 2025年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ  
(英語表記: Special Olympics World Winter Games Turin 2025)
- 開催時期:** 2025年3月8日(土)～15日(土)  
— 開会式: 8日(土) / 閉会式: 15日(土)
- 開催地:** イタリア共和国 (トリノ)
- 参加者数:** 100カ国より  
アスリート・ユニファイドパートナー 1,500名  
ボランティア 2,000名
- 日本選手団:** 団長: 平岡拓晃 (公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長)  
56名 (アスリート・ユニファイドパートナー 32名 / コーチ17名  
団長1名 / 副団長1名 / メディカルスタッフ3名 / SONスタッフ2名)
- 実施競技:** 8競技を実施 ※日本選手団はダンススポーツ以外の7競技に参加  
アルペンスキー / クロスカントリースキー / フィギュアスケート /  
ショートトラックスピードスケート / フロアボール(ユニファイドスポーツ®) /  
スノーボード / スノーシューイング / ダンススポーツ
- 競技結果:** 金メダル 7 / 銀メダル 12 / 銅メダル 7 /  
4位入賞 6 / 5位入賞 8 / 6位入賞 3 / 7位入賞 3 / 8位入賞 3

<内訳> ※ 団体競技と団体種目はメダル又はリボン1つとして集計

順位	アルペンスキー	クロスカントリースキー	フィギュアスケート	ショートトラックスピードスケート	フロアボール	スノーボード	スノーシューイング	合計
1位	2	1	1	2		1		7個
2位	3	3		3	1	1	1	12個
3位	4					3		7個
4位	1			1			4	6個
5位	5	1	1				1	8個
6位	2					1		3個
7位	1						2	3個
8位	1	1					1	3個

<詳細（競技アルファベット順）>

アルペンスキー	ディビジョン	順位	氏名
Advanced Giant Slalom ジャイアントスラローム (上級)	F06	2位	KAY HAMAI ※氏名英語登録表記
Advanced Slalom スラローム (上級)	F06	5位	KAY HAMAI ※氏名英語登録表記
Advanced Super G スーパーG (上級)	F02	8位	KAY HAMAI ※氏名英語登録表記
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	F07	3位	AYAKA KOJIMA
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	F11	3位	SAYAKA YAGISHITA
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	M04	2位	YUKI OSHIYAMA
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	M10	3位	EITA NOGUCHI
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	M14	TDQ	HIROKI KAWAGUCHI
Intermediate Slalom スラローム (中級)	F03	6位	AYAKA KOJIMA
Intermediate Slalom スラローム (中級)	F07	TDQ	SAYAKA YAGISHITA
Intermediate Slalom スラローム (中級)	M03	3位	YUKI OSHIYAMA
Intermediate Slalom スラローム (中級)	M08	5位	EITA NOGUCHI
Intermediate Slalom スラローム (中級)	M09	5位	HIROKI KAWAGUCHI
Intermediate Super G スーパーG (中級)	F04	5位	SAYAKA YAGISHITA
Intermediate Super G スーパーG (中級)	F06	1位	AYAKA KOJIMA
Intermediate Super G スーパーG (中級)	M04	7位	EITA NOGUCHI
Intermediate Super G スーパーG (中級)	M05	2位	YUKI OSHIYAMA
Novice Giant Slalom ジャイアントスラローム (初級)	F07	TDQ	RINA OHARA
Novice Giant Slalom ジャイアントスラローム (初級)	M05	4位	TAKUYA UCHIO
Novice Slalom スラローム (初級)	F03	6位	RINA OHARA
Novice Slalom スラローム (初級)	M05	1位	TAKUYA UCHIO
Novice Super G スーパーG (初級)	M03	5位	TAKUYA UCHIO
クロスカントリースキー	ディビジョン	順位	氏名
500m - Free Technique	F03	2位	KONAMI KUMAMOTO
1K - Free Technique	F01	2位	MAI KAWAMOTO
1K - Free Technique	F05	8位	KONAMI KUMAMOTO
1K - Free Technique	M04	5位	TOWA SOGABE
2.5K - Free Technique	F02	1位	MAI KAWAMOTO
2.5K - Free Technique	M04	2位	TOWA SOGABE
フィギュアスケート	ディビジョン	順位	氏名
Singles - Level 5	Mixed DIV - 1	5位	YURI ITO
Singles - Level 4	Mixed DIV - 1	1位	TOMOAKI SEKI
ショートトラックスピードスケート	ディビジョン	順位	氏名
333m	M04	2位	HOTAKA HIROSE
500m	F03	4位	RION YOSHIHARA
500m	M07	2位	HOTAKA HIROSE
777m	F04	1位	RION YOSHIHARA
777m	M06	1位	HOTAKA HIROSE
1000m	F03	2位	RION YOSHIHARA
フロアボール	ディビジョン	順位	氏名
Men's/ Mixed Unified	Division A	2位	SHUNGO WATANABE (P) KOSUKE IGARASHI HIBIKI SATO NAOKI HASHIMOTO SEIYA AKANUMA (P) DAICHI AKANUMA DAISUKE WATANABE YUTO SUZUKI (P) YOSHIKI WATANABE TATSUNORI TANAKA (P)



2025年6月14日

スノーボード	ディビジョン	順位	氏名
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	F07	1位	TAKUYA IWASAKI
Intermediate Giant Slalom ジャイアントスラローム (中級)	F07	3位	NATSUKI IKEMOTO
Intermediate Slalom スラローム (中級)	F23	2位	TAKUYA IWASAKI
Intermediate Super G スーパーG (中級)	F30	3位	TAKUYA IWASAKI
Intermediate Super G スーパーG (中級)	F30	6位	NATSUKI IKEMOTO
Intermediate Parallel Giant Slalom パラレルジャイアントスラローム (中級)	F36	3位	NATSUKI IKEMOTO
スノーシューイング	ディビジョン	順位	氏名
100m	M05	7位	KOTARO IOJIMA
100m	M11	8位	KENNOSUKE TSUJIMURA
100m	F13	4位	MEGUMI HIRAYAMA
100m	F14	4位	AI OGATA
200m	M04	4位	KOTARO IOJIMA
200m	M11	7位	KENNOSUKE TSUJIMURA
200m	F13	5位	MEGUMI HIRAYAMA
200m	F15	2位	AI OGATA
4×100m Relay	MX04	4位	KENNOSUKE TSUJIMURA AI OGATA MEGUMI HIRAYAMA KOTARO IOJIMA

## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

アルペンスキー ■競技会場: Slopes Alpette Area ■アスリート数: 9名



アスリート  
内尾 拓也 さん  
(SON・東京)

参加が決まった時から、コーチに教えてもらった体操を毎日やりました。それから、ボウリングの練習に週1～2回通って体力づくりをしました。みんなが応援してくれたので、頑張ってスキーを滑りたいと思いました。リボンとメダルを貰えたので嬉しかったです。メダルとリボンを会社に持っていったら、皆が「すごいね。頑張ったね。」とってくれました。僕はこれからも、SOのプログラムもお仕事も頑張ろうと思いました。



アスリート  
大原 鈴菜 さん  
(SON・愛知)

最初にトリノに行けることが決まった時、とても嬉しかったけれど、海外に行くのは初めてで、長く飛行機に乗るのが心配でした。また、いつもは同じ県のコーチやアスリートと一緒にだけ、ジャパントームに知っている人がいないので不安でした。けれど一緒にいるうちに、アルペンチームは仲良くなれてよかったです。スキーは緊張してうまくできなかったのですが、もっとうまくなれるように頑張りたいです。



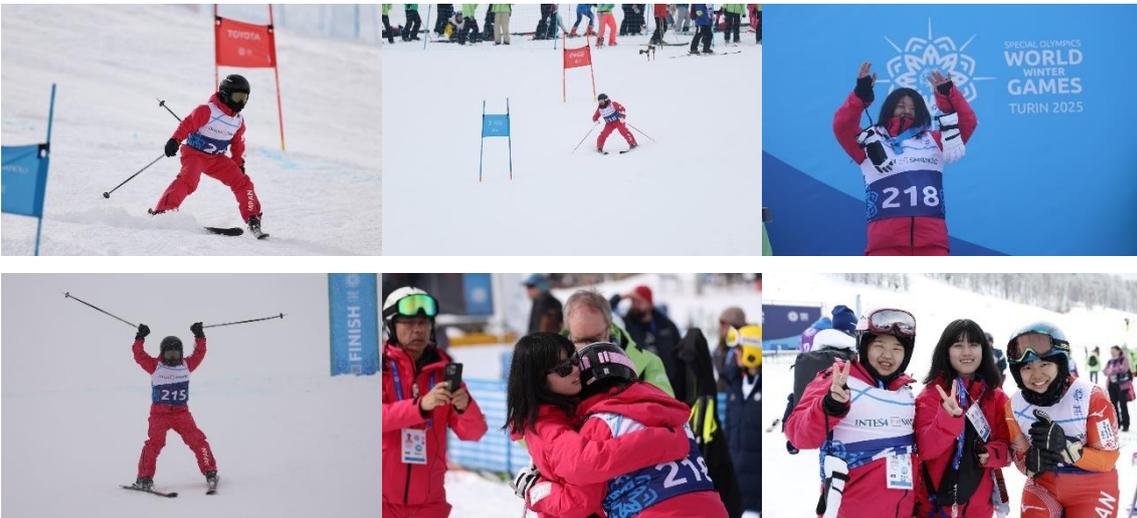
アスリート  
川口 弘樹 さん  
(SON・神奈川)

今まで日本で練習していたのとは違った、初めて経験する急な斜面も、心配だったが、体がうまく動いてくれて、特に問題なくゴールが出来て、表彰されたのがとてもうれしかった。行く前の新聞インタビューで「目標は1位か2位です」と言ったが、惜しくも、5位入賞。大きくて難しいコースを、赤い JAPAN のウェアで頑張っただけで最後まで滑って満足です。



アスリート  
上田 千笑 さん  
(SON・島根)

目標は最後まで諦めずに頑張っ滑り切ること、いろんな国の人とお話をして国際交流をすることです。世界大会までの練習で膝の怪我をしまい落ち込みましたが、頑張っリハビリを家や学校でもやりました。そしてスキーで滑れるようになり病院の先生から出場しても良いと言われ嬉しかったです。世界大会では練習中に膝を痛めて出場が出来なくて凄く残念でしたが、みんなと写真が撮れて嬉しかったし、国際交流でピンバッジの交換が出来たので一つの目標が達成出来て良かったです。仲良くできて協力が出来た事が凄く嬉しかったし良い経験でした。



## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

アルペンスキー ■競技会場: Slopes Alpette Area ■アスリート数: 9名



アスリート  
押山 優樹 さん  
(SON・新潟)

海外のスキー場の景色を楽しみながら、メダルをとれるように頑張った。  
初めての世界大会だったので、たくさんの国の選手とバッチ交換したり、表彰台で握手をして楽しかった。  
食べ物が日本とは違った感じで、どれも美味しかった。特にパスタが美味しかった。バスから見た景色は日本とは違う雰囲気、いい経験になった。  
今回のトリノ大会でメダルがとれて、とても嬉しかった。



アスリート  
児島 彩佳 さん  
(SON・神奈川)

大会の目標は旗門通過(メダルも取りたい)、バッチ交換、ゴールと表彰台パフォーマンスに挑戦すること。  
大会中は外国人にナイス、グッドと言われた事、皆ともぐもぐタイムしたり、写真撮ったり、円陣組んだり、声かけ合ったりした事全部楽しかったです。  
助けて貰ったり、応援してくれた人達に報告に行って「有難うございました」と伝えたいです。



アスリート  
野口 栄太 さん  
(SON・東京)

アルペンスキーのアスリートとコーチには、羽田を出発してから帰国するまで、大変助けられました。  
仲間とともに行動することは楽しかったです。  
また、初めてのコースの旗門をはずすことなく気持ちよく滑れたこと、嬉しかったです。  
世界大会に参加できたのは、多くの方々のおかげと感謝しています。



アスリート  
柳下 沙也香 さん  
(SON・東京)

トリノ大会を思い切り楽しみ感動して帰って来ました。  
SOに参加するようになってから、色々な種目の大会に参加し表彰台に上がりました。表彰台に上がると自分の成績には関係なく、皆さんから拍手声援を頂き、まさに私の唯一の自己表現の場所なのです。  
表彰台に上がれば日本から来てくれた応援ファミリーのみならず、世界各国から来たファミリーや応援団も一緒に歓声をあげお祝いしてくれました。  
最高に喜びを感じる時でした。



アスリート  
浜井 慧 さん  
(SON・東京)

トリノ大会に向けてだけではないのですが、日頃よりアルペンスキーの練習に頑張っています。特に今シーズンは、ジャイアントスラロームのタイムアップを目指してたくさん練習をし、その成果で少しずつ早く滑れるようになりました。大会では最後まで滑り切れただけで惜しくも銀メダルだったので、もっと練習をするつもりです。  
イタリアでの生活は初めてで、日本との時差が8時間あるので、最初はどのように過ごせるか少し不安もありました。でも大会期間中の前半は緊張していたけど、仲間の応援をしたり後半になると楽しさが出てきました。  
普段はこのような経験はなかなかできないので、私にとって貴重な体験にもなりました。



## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

アルペンスキー ■競技会場: Slopes Alpette Area ■アスリート数: 9名



コーチ

石井 公章 さん (SON・東京)

コーチとしての目標は、「心技体をバランスよく安全でたのしい、たくましい、うれしいスキーの実践。」連日繰り返すスタートエリアへの滑走までもがトレーニングとなり、日ごとにスキー上達が目に見えるとの声がコーチから上がりました。また、アスリートがお互いに励ましあい、讃えあい、気が付けば率先してピンバッジ交換や記念写真を他チームに働きかけていました。国や言葉の違いなど意識せず、スポーツにこめる情熱を発揮できるすばらしい環境で喜びにあふれた大会でした。

コーチ

川口 あづさ さん (SON・大阪)

アスリートとは2回の合宿で延べ4日間しか触れ合えず、不安な気持ちも否めなかったが、「全員、スタート台に立ってもらおうこと」を目標に準備をした。何度もコーチMTGを行い、率直な意見を述べ合った。現地でのアスリートは練習も積極的でよく頑張ったと思う。他国のコーチからも積極的に楽しもうという気概が伝わり、温かい雰囲気心地良かった。その原点であるアスリートは素晴らしい存在であると改めて感じた。

コーチ

小松 順子 さん (SON・東京)

元気な体で臨むことを目標にし、日常生活からバランスの取れた食事、睡眠、体のケアを心掛けた。アスリートも食べる努力して体力をつけ、待機が苦手だがチームで動けたこと、挨拶ができるようになったりと成長を感じられ、ファミリーと一緒に大会に臨んできたことが伺えた。大会期間中もタイトなスケジュールや気候変動にも関わらず臨めたことは、自分自身にとっても励みになりました。WG(世界大会)に参加し世界各国に同じ志を持って活動している仲間があると実感し、大変なこともあるけど日常のプログラムも頑張っていこうと思った。

コーチ

柴田 大輔 さん (SON・山形)

コーチとして「出場アスリート全員をスタートさせる」ために、体調管理やアクシデントへの対応、誘導の仕方など、話し合いを幾度も重ねて大会へ臨みました。国内合宿からアスリート同士の一体感は少しずつ深まってきましたが、日本を出発しスキー場へ入ってからの一体感を目を見張るものがありました。仲間を気遣う姿や自分で頑張ろうとする姿、大きな舞台での活躍が楽しみだと感じる事が何度もありました。この大会へ共に参加したアスリート・コーチ・スタッフとこの素晴らしい体験を「共有」できたことを本当に嬉しく思います。

## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

■クロスカントリースキー ■競技会場: Olympic Cross ■アスリート数: 3名



アスリート  
曾我部 永遠 さん  
(SON・北海道)



アスリート  
川本 麻衣 さん  
(SON・北海道)

トリノ大会に向けて、特に頑張ったことは、ハの字で滑って止まる練習です。  
下り坂はハの字で滑って転ばないで曲がることを目標にトリノ大会に臨み、2.5km フリーで銀メダルをとることができました。とてもいい気持ちでした。  
初めての海外旅行でたくさんの外国の人と会えてよかったです。  
トリノ大会での経験を経て、今感じているのはたくさんの人に応援してもらえてありがとうのメッセージを伝えたいです。  
そして、また4年後の世界大会に向けてがんばりたいです。

日本とイタリアは時差や環境と食事など違って新鮮でした。



アスリート  
熊本 小菜実 さん  
(SON・北海道)

トリノ大会に向けて頑張ったことは、筋力トレーニングとスキーの練習です。  
世界大会はとっても疲れましたが、友達がたくさんできて嬉しかったです。  
今度は走るの(陸上)頑張ります！コーチありがとう。



コーチ  
竹田 良秀 さん (SON・長野)

コーチ  
忠鉢 真樹 さん (SON・北海道)

スローガン“Beyond”を、日々具現化していくアスリートたちに大・感動！共有できたことに大・感謝！

準備力、想定力・対応力、協働力が大事。

改めて、日頃のプログラムの大切さとありがたさを実感。

コーチ目標は心地よくワクワクした気持ちでスタートラインに立って欲しい、でした。スタート後は全力で挑戦してくれると信じていました。フィニッシュしてきたアスリートの晴々とした顔を見ると達成出来たのだと思います。今回心と体のサポートを大切にしました。女性アスリートへは生理周期の精神的変化の対応を大切にしました。団体行動や長時間待つ事が苦手だったアスリートは帰国時には自ら点呼を行いまとまって歩けるように声を掛け合えるように成長していました。世界のアスリートと触れ合い、外国の言葉に挑戦してみたり、長期間ファミリーから離れる事は彼らを大きく成長させる機会になりました。私もこの経験はコーチとしても人としても生涯私の宝物になるでしょう。

## アスリート&コーチ ~世界大会を通して感じたこと~

フィギュアスケート ■競技会場: Palasport Tazzoli ■アスリート数: 2名



アスリート  
関 友昭 さん  
(SON・神奈川)



アスリート  
伊藤 友里 さん  
(SON・北海道)

はじめての世界大会だったので、少し緊張していた。スケート場でエールが沢山あり最初は驚いたが、とてもうれしかった。  
長野のナショナルゲームでうまくいかなかったスピンを練習して、世界大会でできた時はうれしかった。ちょっとミスをしてしまったが、最後まで恐れずに集中して、楽しく演技できた。  
一緒に行った日本選手団とトリノで会った外国のアスリート達と仲良くなった。ピンバッチの交換も楽しかった。トリノのバスや路面電車は声かけがなかったので日本の方が親切だった。  
次の大会にむけて、新しい技を練習していきたいと思っています。

メダルには届くことが出来なかったですが、一緒に参加したカナダのアスリートと喜びあったりできた事がいい思い出になりました。  
世界の舞台に立ちいろいろな国の人の競技を見ていたら、もっと練習してレベルを上げていきたいと改めて目標が出来ました。  
トリノの街を観光でき、ジェラードが食べられた事が出来た事、イタリアのご飯が美味しかったです。



コーチ  
井上 圭子 さん (SON・山形)

コーチ  
清水 一滴 さん (SON・東京)

大きな目標の一つは、アスリート個々の持つ能力を十分に発揮できる環境で競技に臨めるようにということです。事前の合宿では、それぞれのアスリートが、どのような状況であれば一番心地よく過ごせるのかを把握することに努めました。今回の大会を通じて、スポーツという一つの競技を通して、知的障害を持つアスリートも、世界中の人たちとコミュニケーションを取り、交流を深められることを目の当たりにし、感動を覚えました。また、表彰式でアスリートが堂々と表彰台に上がり、ともに戦った相手と握手をし、最高の笑顔を見せてくれたことや、会場の皆さんが一つになって全員の戦いをほめたたえてくれる場面では、全員表彰のすばらしさを改めて実感しました。一人でも多くのアスリートにこのような貴重な経験をしてほしいと切に願っています。

各地区での練習通り、ベストの演技してもらうことを優先的に考えていました。具体的には、昨年の国内冬季大会での演技を上回ることが1年間の成長につながるかと想定していました。  
他国からの声援を自らの応援と思って楽しんで欲しいと伝えていたが、リンク場で堂々と演技している姿に成長を感じました。  
英語やイタリア語が飛び交う中、フィギュアスケートでは全てのアスリートに対して音楽に合わせた拍手、応援があり、優しい雰囲気であったことに感動しました。日本の全てのアスリート、コーチに世界大会を経験して欲しいと感じています。

## アスリート&コーチ ~世界大会を通して感じたこと~

ショートトラックスピードスケート ■競技会場: Palasport Tazzoli ■アスリート数: 2名



アスリート  
廣瀬 武尊 さん  
(SON・大分)



アスリート  
吉原 里音 さん  
(SON・東京)

トリノ大会に向けて頑張ったことは、腰を落とす練習と室内練習を頑張りました。日頃の練習の成果を全力で発揮し、自分のベストと銀メダル2個と金メダル1個を獲得することができました。  
イタリアでの食べ物を食べることができました。  
世界大会に参加して他国のアスリートと交流出来て楽しかったです。

今回のWGが生まれて初めての海外、飛行機でした。出発日が近づくにつれ不安が募りましたがコーチやボランティアさんの支えとアスリートの仲間達のお陰で安心して大会期間を過ごせました。  
WGにむけてSOと並行して千葉県のスケートリンクで練習を始め、氷上前後のストレッチやクロスの練習ペース配分を意識しました。タイムを縮めることができ、日々の努力の大切さを実感しました。  
本番では氷の感触が普段と違い戸惑いましたが落ち着いて滑るよう意識し777mで金メダルを獲得しました。初出場で表彰台の一番上に立てた事を誇りに思います。



コーチ  
梅内 康博 さん (SON・神奈川)

コーチ  
木庭 照美 さん (SON・大阪)

ヘッドコーチとして、アスリートに楽しく充実した思い出を作ってあげようと臨みました。国内合宿は、二人のアスリートのことが分かり、役立ちました。  
トリノに入り、一人は公式練習で転倒、もう一人はデビュージョニングで転倒。失敗は成功のもとです。自分にも経験があったので、上手いく予感がありました。  
結果、見事に立ち直り、それがメダルにつながりました。これは、今後の人生に大きな自信になったはずです。  
皆さんの支えで、楽しく充実したWGになりました。感謝の念に堪えません。

コーチとして、アスリートが楽しくいつも通り、競技に専念できるような支えができればいいなと思い過ごしました。  
初めての場所に緊張をするアスリートもいましたが、最後には、笑顔を見せてくれてメダルが取れた時には、感動のあまり涙してしまう事もありました。  
更に、他の国のアスリートやコーチとピンバッチ交換をしたり写真を撮ったりしてとても充実した日々でした。  
参加できたことに感謝しています。ありがとうございます。

## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

スノーボード ■競技会場: Melezet Area Slopes 23 ■アスリート数: 2名



アスリート  
岩崎 拓也 さん  
(SON・新潟)



アスリート  
池本 夏綺 さん  
(SON・長野)

自分は初めて海外遠征に行きました。大会本番では緊張しましたが、普通のジャイアントスラロームで金メダル、スラロームで銀メダル、スーパージャイアントスラロームで銅メダルとなりました。非常に嬉しかったです。つぎの目標に向けて頑張ります！

トリノ大会に向けて練習開始、先ず12月29日(日)を皮切りに練習を週一始めた。特に苦手な反時計回りターンを克服するため反復練習しボード仲間が撮影してくれた動画にて修正する内容でした。楽しさ辛さ半々でしたが成功した時の嬉しさを実感できた。大会への目標は様々なポール間隔(ショート or ロング)を「いかに上手く納得いく滑りができる」かで、結果として入賞すること、銅メダルの結果でしたが、銅メダル以下は、かなり悔しかった。またイタリアと日本との環境の違いに驚きを感じた。イタリア人は優しいでした。日本食がやっぱりおいしいのが実感です。多くの友達に世界体験してほしい。



コーチ  
井上 敬之 さん (SON・長野)

コーチ  
春原 紀子 さん (SON・長野)

今回、コーチとして大会に参加させていただきました。目標としては、アスリートにメダルを取らせてあげたいのはあったのですが、それより世界大会に参加する事自体を楽しんでもらえたらいいなと思いながら、大会に臨ませていただきました。結果は、コーチとしては、まだまだ至らない点が多く、自分自身が一杯一杯な所があり、もっと余裕をもって頑張れたのではないかと思う所ではあります。けれども、大会を通じて、アスリートが他の国のアスリートとの交流や大会自体を楽しんでもらえたので、参加させてもらえていい経験になりました。

前大会から8年後の2025年トリノで行われた冬季世界大会。色々なことが変わった中で、冬季の世界大会がどのように変わっていくのかを体感し、学ぶことを一番の目標として準備してきた。アスリートは、国内合宿での緊張と不安が、トリノから会場のバルドネッキアに到着、競技と進む中、日に日に、心の自信からの滑りの向上を目の当たりにした。街中の人たちから《スペシャルオリンピックス》の話題で話かけられる。日本ではほほえない。アスリートが頑張っている姿を日本でもっと知ってもらいたい、たくさんの人々に感じてもらいたい。

## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

スノーシューイング ■競技会場：Sport Center ■アスリート数：4名



アスリート  
辻村 賢之介 さん  
(SON・山口)

トリノ大会に向けて、コーチと毎週練習を頑張りました。途中で足が痛くなったり、走りたくない気持ちにもなりましたが、コーチと一緒に練習をしている仲間にも励まされて頑張ることができました。トリノ大会ではメダルを取ることを目標に頑張りました。今回の大会ではメダルは取れませんが、自己ベストの走りができて嬉しかったです。リレーでは日本チームのチームワークを感じることができました。トリノでは多くの国から来たアスリートと話をすることができました。言葉は通じませんでしたが、同じアスリートとして頑張ろうねと声を掛け合うことができました。緊張の気持ちや達成感を分かち合うことができ、刺激を受けました。トリノ大会ではメダルが取れず悔しかったですが、また、練習を頑張って世界大会に行きたいです。



アスリート  
緒方 愛 さん  
(SON・熊本)

今回特に嬉しかったことは、区の多くの人から応援してもらったことです。所属しているプランチでの、S010周年記念のポッチャ交流大会第4回大会で、区民200人ほどの前で壮行会をしていただきました。また、自治協議会、社会福祉協議会等、区民の方から横断幕を国道沿いに掲示してもらいました。だから作業所から帰って、夕方寒い北風が吹く中、1kmほど12月から毎日走りました。「トリノはもっと寒い」と言いながら。大会でメダルが取れて近所のおばちゃんにメダルを見せに行きました。大会の時はボランティアさんと遊んだことが楽しかったです。多くの人たちといっぱい思い出を作れた世界大会は嬉しかったので、新聞社にも作文を出しました。近くの郵便局でも大会の写真をはってみんなが見るようにしてくれるそうです。皆にありがとうございます。



アスリート  
五百島 幸太郎 さん  
(SON・北海道)

とても充実した大会だった。初めて家族と長期離れて、不安だらけで大変だったけどコーチ、チームメートと一緒に乗り越えられたし、今までに感じた事が無いくらいの感動と興奮が身体中に感じられた。スタッフの方の協力も嬉しかったし、大会のボランティアさん達が沢山盛り上げてくれたのが本当に嬉しかったです。また絶対世界大会にいきたいと思った。



アスリート  
平山 めぐみ さん  
(SON・熊本)

私は、スノーシューイングの日本代表に選ばれてトリノ世界大会に参加することができました。とってもうれしかったし、とっても楽しかったです。出場が決まってからは、練習を頑張りました。すこしでもタイムが早くなればいいなと思いました。トリノ大会では、まっ白い雪の上をがんばって走ることができて良かったです。たくさんの人に 応援してもらいました。「ゴーゴー めぐみ・・・」とみんなが応援してくれました。たくさんの人に支えられて、私はトリノでかいっぱい走ることができました。私は、世界大会に2回参加することができました。まだ一度も参加していない人もいます。世界大会にたくさんの方が参加して 楽しさと感動を体験してほしいと思います。

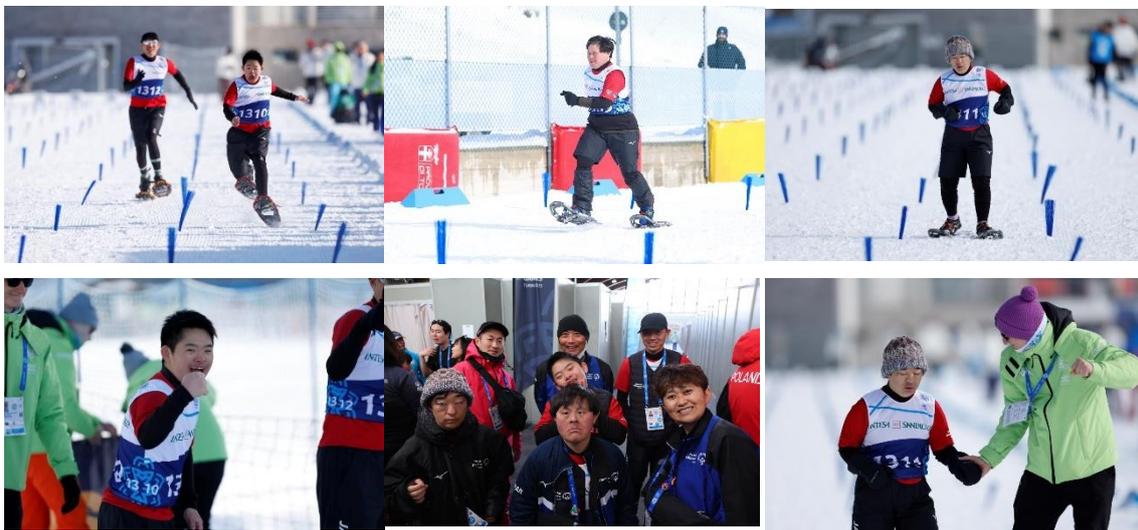


## アスリート&コーチ ～世界大会を通して感じたこと～

スノーシューイング

■競技会場：Sport Center

■アスリート数：4名



コーチ

渡邊 光春 さん (SON・千葉)

スノーシューイングは雪のコースをひたすら走り続けるSO独自の競技です。  
今回参加しているアスリートは北海道から九州の地区より4人の男女が参加しました。  
私がコーチとして1番考えた事は、日頃の成果を発揮出来るために試合に繋がる生活を多様なアスリート個々の性格に合わせてベストコンディションでスタートラインに送り出す事でした。  
環境や食事様々な困難がありましたが、一緒に参加したコーチの協力もあり大会でのアスリートはベストを出しきれたと思います。結果はアスリートの希望のもので無かったかもしれませんが、パフォーマンスはみんな最高でした。この経験を誇りに次の目標を見つけ新たに走り続けて欲しいと思います。  
最後にこのような機会を作っていただいたスポンサー関係者全ての皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

コーチ

熊本 香織 さん (SON・北海道)

コーチとして、初めてのWGです。目標は「縁の下の力持ち」と「アスリートと一緒に大会を楽しもう」をテーマに臨みました。  
国内合宿で初めて顔合わせをし、目標や改善点をHCとミーティングを重ね、WG本番。タイトなスケジュールでしたが、アスリートは毎日笑顔！そしてレースを全力で走り、ゴール後の笑顔はとても輝いていました。最高の瞬間でした。彼らの行動も視線が下向きでしたが、顔を上げ堂々と変化していきました。  
WGで感じたことは、国は違えど頑張る思いは同じで、それぞれの国のアスリート達はアスリート同士により更に力を引き出し合っていると感じました。  
「SO」の温かく包んでくれる雰囲気と称え合う姿に感動しています。  
WGの経験は私にとって人生の宝物になりました。沢山の応援、ありがとうございました。

## アスリート・パートナー&コーチ ~世界大会を通して感じたこと~

フロアボール(ユニファイドスポーツ®)

■競技会場: Palasport Olimpico

■アスリート数: 6名 ■パートナー数: 4名



アスリート

橋本 直樹 さん  
(SON・福島)



アスリート

赤沼 大地 さん  
(SON・長野)

チームの皆で決めた、金メダルとワンチームで、試合をすることを目標にしていました。結果は銀メダルでしたが、各国のチームとの試合は楽しみながら出来ました。トリノの生活の中で、初めに食事面が心配でしたが、とても美味しいパスタやピザを食べられたことが良かったです。僕自身車が好きなので、移動の間どんな車が走っているか探し回っていました。またコミュニケーション面で英語やイタリア語が飛び交っていたので、海外選手と話がしたかったのですが、もう少し勉強してから来られれば良かったなあと感じました。障害有るなしに関係なく皆が本気になって、苦手な部分を補いながら出来たところが良かったです。

トリノ大会の目標は「デビジョン1で金メダルをとること。」「仲間と一緒に戦い、皆で喜びを分け合うこと。」結果は銀メダルでしたけど、良い結果が残せて良かったです。普段と違う環境でしたが、東京のアスリート2人と楽しく話したり持ち物チェックなどをしたり、競技では仲間を信じて戦えました。試合が進むたびに皆の団結力が深まって、一つになっていく感じがしました。日本は良いチームで優しいメンバーでしたので、自分も居心地が良かったです。目標にできるチームメイトがいて、いつも刺激をもらいました。



アスリート

五十嵐 公祐 さん  
(SON・東京)



アスリート

渡邊 大輔 さん  
(SON・東京)

今回、世界大会に初めて参加し、とても緊張しました。チームの目標は「優勝」で、自分はボールをキープしてパスにつなげることを特に頑張りました。結果は準優勝で、銀メダルを獲ることができました。準決勝のマレーシア戦で、シュートを決めたことが、一番嬉しかったです。コーチやチームのメンバーとは、日本での合宿やトリノでの生活を一緒にしていくうちに、元気よく声を出しあえるようになり、試合に集中できました。プレーをしていて「負けない!」という気持ちが強くなっていったことがよかったですと思います。とてもいい経験ができました。チームの皆さん、応援してくれた皆さん、ありがとうございました。

【確認中】



## アスリート・パートナー&コーチ ~世界大会を通して感じたこと~

フロアボール(ユニファイドスポーツ®)

■競技会場: Palasport Olimpico

■アスリート数: 6名 ■パートナー数: 4名



パートナー  
鈴木 雄登 さん  
(SON・福島)



パートナー  
赤沼 星哉 さん  
(SON・長野)

個人として、チームの目標であるワンチームになることと金メダルを目指して取り組みました。金メダルという目標は達成できませんでしたが、目標に向けてアスリート、パートナー、コーチと一緒に目指していた姿がユニファイドスポーツ®として達成できたのではないかと感じます。また、自分たちのチームは自信を持ってワンチームを達成できたのではないかと思います。ユニファイドスポーツ®の目的や魅力などを実際に大会を通して得られたものがあるし、その姿を世界の人たちに見て頂けた事で、少しでも社会福祉貢献できたのではないかと思います。

合宿の時点でアスリートとパートナーの間で壁のようなものは特に感じていなかった。大会ではお互いに苦手な点もあったのでそういったところを支え合いながら大会中過ごせたと思う。チームの皆さん、応援してくれた皆さん、ありがとうございました。



コーチ  
柳本 健二 さん (SON・長野)

コーチ  
上村 光男 さん (SON・東京)

コーチとしての目標は、アスリートが自信を持って挑戦できる環境を整えることでした。国内合宿から大会終了まで、アスリートやパートナーの成長やチームワークの向上を実感でき、彼らの努力が実を結んでいく様子がとても感動的でした。国際大会の場では、スペシャルオリンピックスやユニファイドスポーツ®の“共に”を実感し、障がいを超えた絆や友情の大切さを強く感じました。ユニファイドチームを作る過程では、コミュニケーションの重要性を意識し、時には苦勞もりましたが、それが絆を深める要因となりました。この大会を通じて、ユニファイドスポーツ®の持つ魅力を再確認し、共に支え合い、成長することの大切さを広めていきたいと強く思いました。

皆で決めた目標が優勝と One Team だったのでコーチとしてもそれを実現することが目標でした。チームの成長を一番感じたのは 2 月の最終合宿。練習試合で最初はコテンパンにやられた後、メンバー自ら考え対応し最後は勝つことができました。強い相手にも自分たちの対応力でなんとかなるという自信が持てました。この経験は本大会でも生かされ厳しい試合を通じて成長し決勝進出につながったのだと思います。今回は 3 地区合同のユニファイドチームでしたが、アスリート・パートナーに関係なくそれぞれが自分の強みを生かしチームに貢献してくれ本当に One Team でした。このチームに加われて幸せでした。皆に感謝いたします。

## ユニファイドスポーツ®の魅力 ~アスリート・パートナー・コーチ それぞれの思い~

ユニファイドスポーツ®は、知的障害のあるアスリートと知的障害のないパートナーがチームメイトとなり、共に競技を行うスペシャルオリンピックス独自の取り組みです。今大会、冬季世界大会では初めて日本選手団よりフロアボール競技がユニファイドスポーツ®として参加しました。



アスリート  
佐藤 響基 さん  
(SON・福島)



アスリート  
渡邊 克貴 さん  
(SON・福島)

トリノ大会の目標は、①優勝 ②誰も一人にしないチームでした。  
優勝以外は達成でき、ヘッドコーチから教わった誰も1人にしないというマインドは、今後の競技に対する姿勢も変わるキッカケになったと確信しています。  
ユニファイドスポーツ®は、障害の有無に関係なくお互い対等になれるスポーツ。  
日本のユニファイドチームはフレンドリーで、終始笑いが絶えないチームでした。

ユニファイドスポーツ®は、パートナーがいてその人たちとコミュニケーションが取れたり楽しめたり、団体競技なので力を合わせることができるととても楽しいです。  
日本のユニファイドチームは最高のチームでした！  
とても楽しかったので、4年後も世界大会へ行けるように今から頑張りたいと思います。  
チームの皆さん、応援してくれた皆さん、ありがとうございました。



パートナー  
渡部 俊悟 さん  
(SON・福島)



パートナー  
田中 達規 さん  
(SON・東京)

大会では、どのチームも敵味方関係なく称え合っている姿があり、私も自然とその姿勢を振る舞っていました。この姿勢を体感できたことは私の財産でもあり、当たり前前の姿勢にしていきます。  
アスリートの「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむことができました。フロアボールを通じてユニファイドを実践できたはずで。

国内合宿からトリノ大会終了までの約半年間、私たちは「One Team で金メダル」という目標に向け、障害の有無に関係なく誰もが各々を尊重するユニファイドスポーツ®の醍醐味を發揮しました。  
各々の強みを理解し、個性を活かすプレーをすることで最上位ディビジョンで決勝まで進出できました。最後は一步足りませんでした。「銀メダル」という成果は誇りです。世界の舞台上仲間と本気で戦ったことは、「人生が変わる」時間でした。



### コーチ

高橋 由衣 さん (SON)

私はコーチとして、「誰も一人にしないチーム」「誰もが楽しく、居心地の良いチーム」を作ること为目标に、今大会に臨みました。今大会のユニファイドフロアボールチームは、3つの異なる地区からアスリート・パートナーが集まってできたチームであったため、上記した点はチームで良い結果を出すためにとても大切なことでした。  
3回の国内合宿を経て、アスリート、パートナーたちがお互いを知っていく中で、少しずつ所属地区や障害の有無、フロアボール歴などを超え一つのチームになっていきました。アスリートたちの明るさ、真面目さ、常に全力で取り組む姿勢にパートナーたちが感化され、チーム全体の底上げにつながったことが印象に残っています。  
世界大会本番で見事に One Team にまとまったユニファイドフロアボールチーム。団結したチームの強さに圧倒されました。チームの目標であった金メダルまではあと一步及びみせましたが、決勝に応援に来てくれた多くの方々や選手の涙を見た時、改めてこのチームの素晴らしさやユニファイドスポーツ®の魅力・可能性を感じました。

## SONドリームサポーター ～小塚崇彦さん・寺尾悟さんが感じたSO世界大会～

SONドリームサポーターの小塚崇彦さん、寺尾悟さんが実際に現地へ赴き、各競技会場で日本選手団にたくさんのエールを届けてくださいました。お二人には、世界大会派遣前の国内合宿にもご参加いただき、合宿から現地まで、今大会全体を通して日本選手団を応援いただきました。

### ■ 小塚崇彦 さん(SONドリームサポーター)

SONドリームサポーターとして、トリノ世界大会に同行しました。出発前の羽生市体育館でのフロアボール合宿では、アスリートたちが仲間と声を掛け合いながら、疲れた中でも最後まで真剣に練習に取り組んでいました。その頑張りが、試合での最後まであきらめない白熱した決勝戦につながっていたと感じます。現地では、競技を通じて国際的な交流も生まれ、アスリートたちがそれぞれの舞台上で堂々とパフォーマンスを披露する姿がとても印象的でした。私はユニファイドスケートに参加し、伊藤友里さんとともに滑りました。リハーサルを重ねる中で信頼関係を築き、本番では多くの方々と感動を共有することができました。スポーツを楽しみ、真剣になると、世界をつなぐ絆になることを改めて感じました。



### ■ 寺尾悟 さん(SONドリームサポーター)

アスリートと絆を深める。そんな思いを抱きながら昨年11月岩手県盛岡市での合宿に参加。一緒に滑ることで少しずつ距離が縮まっていき、アスリートは明るく前向きで、私自身スケートをやってきて良かったと思う瞬間でもありました。そしてトリノ世界大会。自身が出場した2006年オリンピック以来、SONドリームサポーターとして再びこの地を訪れたのは偶然ではないと思います。大会直前、緊張するアスリートに技術指導よりも、寄り添う事で心落ち着き競技会へ望めるようサポートを心掛けました。アスリートは全力を尽くし、観客は国籍関係なく応援している心温まる光景は、まさにスペシャルオリンピックそのものでした。現地にてアスリートの最高の笑顔は何度も目の当たりにし、共生社会へ向けてこの輪が世界に広がる、その一端を少しでも担っていきたいと改めて感じる、そんな大会と私自身はなりました。



## Founder's Reception ~小塚さん・寺尾さん・SO 日本アスリート on Ice~

3月9日(日)にスペシャルオリンピックスの創設者であるユニス・ケネディ・シュライバーと世界中のスペシャルオリンピックスの活動を祝して、「Founder's Reception on ice」が開催されました。



### ■ Founder's Reception on ice 概要

日程：2025年3月9日(日)

場所：Pala Tazzoli Ice Arena

内容：オープンスケート(ユニファイド形式)、小塚崇彦さんソロ演技、  
小塚崇彦さんと SON・北海道アスリートのユニファイドアイスダンス等

オープンスケートの時間では、SON ドリームサポーターである小塚崇彦さんと寺尾悟さんが各国のアスリートと共にユニファイド形式でリンクを滑走しました。また「Founder's Reception on ice」では、小塚さんが「2024年第8回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」のフィギュアスケートユニファイドスポーツ®エキシビションで披露した「I'm yours」をトリノの地で再演しました。さらに日本選手団フィギュアスケート競技アスリートの伊藤友里さん(SON・北海道)と一緒に、ユニファイドスポーツ®アイスダンスでダッチワルツを披露し、パフォーマンス後には会場から大きな拍手が送られました。その後、司会を務めた他国のアスリートから小塚さん、伊藤さんへインタビューが行われ、ダッチワルツの感想や、小塚さんがSONの活動を始めたきっかけ等を話しました。

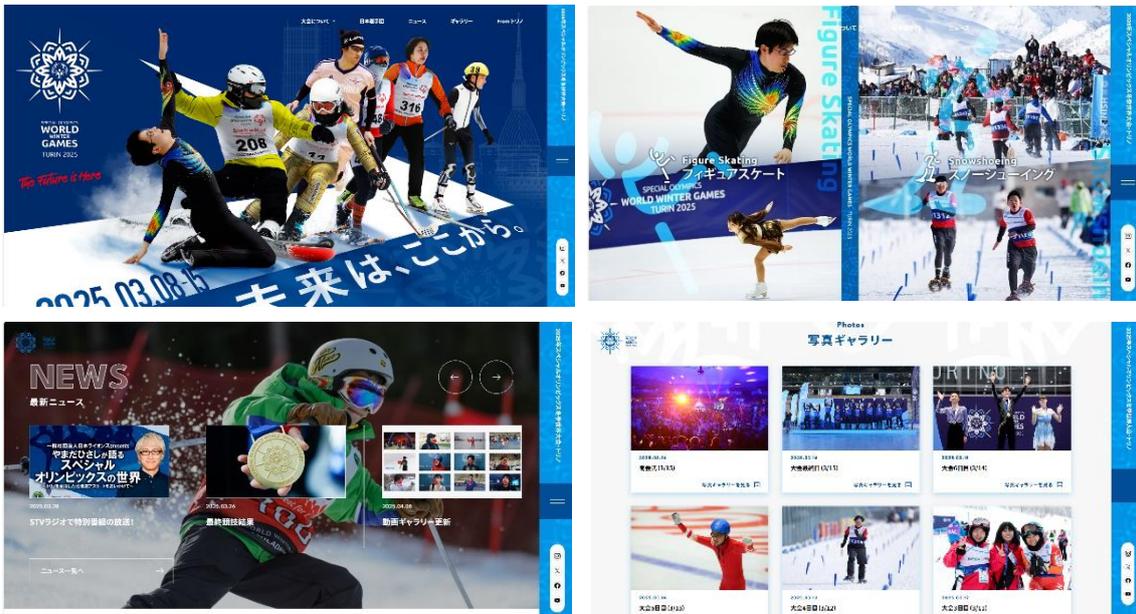


## 大会広報の取り組み

### ■【日本選手団・特設サイト】日本選手団に関する情報や現地の様子を発信

日本選手団・特設サイトを開設し、大会概要や日本選手団のプロフィールをはじめ、大会前には国内合宿の様子、大会期間中は現地の様子や各競技のアスリートたちの活躍を発信しました。

▶ 日本選手団・特設サイトは[こちら](#)



### — 現地の様子を「From トリノ」のページからも発信！！ —

SON 広報プロジェクトアンバサダーのやまだひさしさんに、現地で日本選手団を応援いただくと共に、アスリートたちやコーチの声、平岡拓晃団長、現地で日本選手団へ声援を届けていた SON ドリームサポーターたちが大会を通じて感じた思い等を届けるためインタビューを実施いただきました。インタビューの内容は特設サイト内「From トリノ」に音声データと共に掲載し、現地の様子を発信する新たな広報の取り組みとなりました。

▶ こちらよりぜひお聴きください：[From トリノ](#)



### ▶ やまだひさし さん(SON 広報プロジェクトアンバサダー)

トリノに着いた時から、街全体の歓迎ムードを感じました。また世界各国から参加している選手団たちの笑顔や元気な雰囲気印象的で、SO ならではのピンバッジ交換を通して、たくさん話かけてくれたのもとても嬉しく、SO の一員になれた気がしました。アスリートたちを見ていると、挑戦することの大切さや、お互いに励まし称え合っていて、その素晴らしさを実感できたのも良かったです。もちろん競技なので競い合いでもあるけれど、良きライバルであり、良き仲間であるということが体感できる場なのだと感じました。改めて SO の活動をもっと日本で広めたいと思いましたし、私はラジオ DJ なので、今大会で感じたことや SO をさまざまな場所で伝えていきたいと思えます！



■ 【SON 公式 SNS】 大会現地の様子を随時発信

大会の様子を随時 SON の各公式 SNS で発信し、アスリートたちの活躍を届けました。

・Instagram アカウント名: [@specialolympics\\_nippon](https://www.instagram.com/specialolympics_nippon)

・X(旧 Twitter)アカウント名: [@so\\_nippon](https://twitter.com/so_nippon)

・Facebook アカウント名 [@so.nippon](https://www.facebook.com/so.nippon)



Instagram



X



Facebook

### ■ 【スペシャルオリンピックスデー】 日本選手団メンバーが大会 PR !

2025年2月1日(土)に、B.LEAGUE アルバルク東京公式戦にてトヨタ自動車様とアルバルク東京様のご協力のもと、スペシャルオリンピックスデーを開催いただきました。ハーフタイムに、SONドリームサポーターの小塚崇彦さん、寺尾悟さんと共に、日本選手団 ショートトラックスピードスケート競技アスリートの吉原里音さん(SON・東京)、フィギュアスケート競技アスリートの関友昭さん(SON・神奈川県)、フロアボール競技パートナーの田中達規さん(SON・東京)が大会 PR を行いました。また会場では、トヨタ自動車様に SO ブースを設置いただき、ご来場いただいた方々に日本選手団に向けた応援メッセージをお寄せいただきました。

▶ イベントレポートは[こちら](#)



### ■ 【SON アスリートアンバサダー インタビュー】 日本選手団の声をお届け !

2025年2月24日(月)に、SON アスリートアンバサダーが日本選手団 スノーボードチームへインタビューを行いました。スノーボード競技の見どころや世界大会への意気込み、トリノで楽しみにしていることなど、大会開催目前に迫ったスノーボードチームの様子をお伝えしました。

▶ インタビュー記事は[こちら](#)



— さまざまな広報媒体で取り上げていただきました！ —

■ 朝日新聞社様

・2025年3月7日(金) 朝日新聞朝刊 掲載

「障害の有無を超えて、共に成長 スペシャルオリンピックス、あす開幕」

世界大会・トリノやスペシャルオリンピックスについて、特集記事が掲載されました。

▶ デジタル版は[こちら\(有料記事\)](#)



・2025年3月9日(日) 朝日新聞デジタル 掲載

「トヨタとスペシャルオリンピックス 共生社会に向けてともに歩んできた道と、めざす未来」

スペシャルオリンピックスの取り組みやスペシャルオリンピックスとトヨタ自動車様との歩み、またトヨタ自動車社会貢献部 今井崇夫様とSON 平岡拓晃理事長の対談が掲載されました。

▶ 掲載記事は[こちら](#)



■ STV ラジオ様

・2025年3月30日(日)20時~21時 STV ラジオ 放送(対象エリア:北海道)

特別番組『一般社団法人日本ライオンズ presents やまだひさしが語る スペシャルオリンピックスの世界 ~トリノを目指した北海道アスリートを追いかけて~』

SON 広報プロジェクトアンバサダーのやまだひさしさんが世界大会・トリノに参加、フィギュアスケート競技アスリートの伊藤友里さん(SON・北海道)のお話を中心に、スペシャルオリンピックス活動についても番組でお話いただきました。



■ Youtube チャンネル「トヨタタイムズスポーツ」様

・2025年3月21日(金) トヨタタイムズスポーツ 公開

SON ドリームサポーターの寺尾悟さん(トヨタ自動車所属)が、世界大会・トリノの開会式の様子や日本選手団と交流した様子についてお話していただきました。

▶こちらよりぜひご視聴ください:[トヨタタイムズスポーツ](#))



■ ウェブマガジン「@Living」様

・2025年3月11日(火) @Living 記事掲載

「誰かの“ために”ではなく、“ともに”取り組む未来へ「スペシャルオリンピックス」がめざす共生の形」

▶掲載記事は[こちら](#)

■ 時事通信社様

・2025年4月16日(水) 時事通信社 記事掲載

「こども・ニュースの授業」知的障害持つアスリートが輝ける舞台＝スペシャルオリンピックス開催一イタリヤ・トリノー日本から32選手が参加

—日本選手団フロアボールチームに密着「Special Movie ALIVE」2作目始動！—

■ 【「ALIVE」シリーズ映像撮影】「Special Movie ALIVE」2作目制作へ！

2023年に公開しました、SOアスリートの日常を描いた「Special Movie ALIVE #1」の2作目として、今回日本選手団フロアボールチームにフォーカスした映像撮影を行いました。

「Special Movie ALIVE」は、SONのスローガン「Be with all」を表現したスペシャルムービーで、SOのアスリートやSOに関わるさまざまな人たちにフォーカスし「ALIVE」シリーズとして、映像を制作しています。

2作目である今作は、「ユニファイドスポーツ®」をテーマに、日本選手団フロアボールチームを題材として、地区でのプログラムや日本選手団国内合宿、そして世界大会・トリノへ向かっていく様子を追いました。現在制作中で、2025年7月頃公開予定です。

▶「Special Movie ALIVE #1」については[こちら](#)

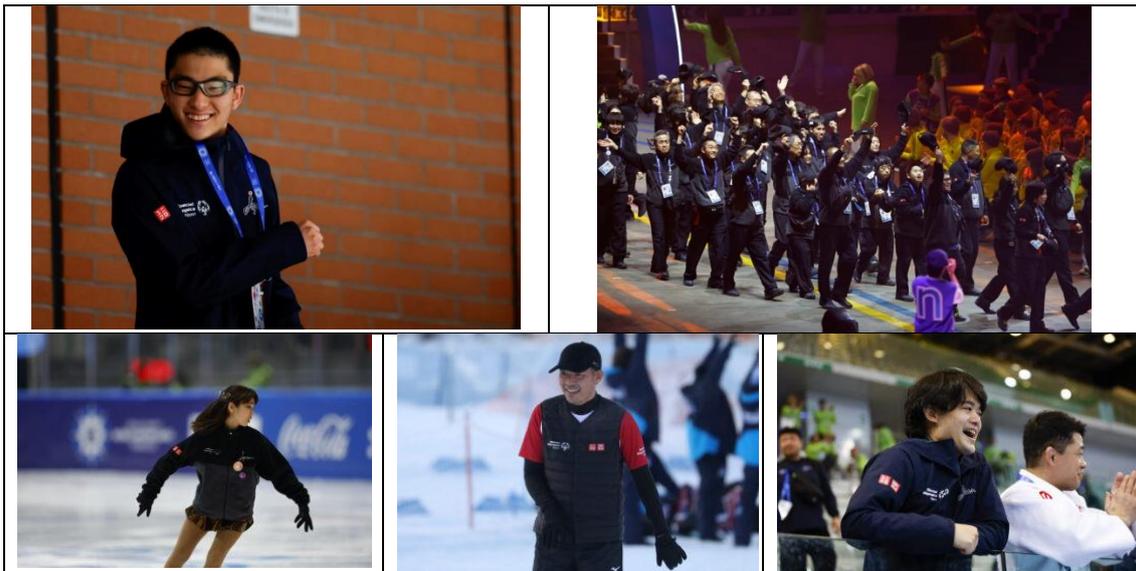


## Special Thanks

世界大会・トリノへの日本選手団派遣に伴い、各企業・団体様よりご支援いただきました。

### ■ ユニクロ様ー 日本選手団公式ユニフォームのご提供

日本選手団 56 名が大会開閉会式等式典や移動等で着用しました全 10 アイテム 計 870 着をご提供いただきました。大会開会式では、ユニクロ様ご提供ユニフォームを日本選手団全員が着用して入場しました。競技会開催中は、雪の降る中でもユニクロ様のご提供ユニフォームで寒さに負けずに競技に臨むことができました。



### ■ トヨタ自動車様

#### ー ①日本選手団の応援旗のご提供

日本選手団に向けて、トヨタ自動車の皆様からのメッセージが書き込まれた応援旗をいただきました。



#### ー ②日本選手団の交換用ピンバッジのご制作

日本選手団が大会期間中、海外のアスリートやボランティアの方々等と交流する際に交換するピンバッジをご提供いただきました。ピンバッジをきっかけに、日本選手団も各国の選手団、ボランティアと積極的に交流を行うことができました。



■ Softbank 様— 現地携帯電話のご提供

現地で日本選手団の連絡手段として Softbank 様からスマートフォンを 30 台貸与いただきました。円滑な情報共有、連絡に活用させていただきました。



■ 日本ライオンズ様— STV ラジオ様放送の特別番組へのご協賛

日本ライオンズ様にご協賛いただき、STV ラジオ様にて、特別番組『一般社団法人日本ライオンズ presents やまだひさしが語る スペシャルオリンピックの世界 ～トリノを目指した北海道アスリートを追いかけて～』を放送いただきました。

■ AOI Pro.様— 「Special Movie ALIVE」2 作目のご制作

「Special Movie ALIVE」のシリーズの 2 作目として、AOI Pro.様に日本選手団 フロアボールチームを題材に、映像制作をいただいています。

沢山の温かいご支援ご協力を誠にありがとうございました。

## 大会総括 ～日本選手団 平岡拓晃団長より～

2025年3月8日から15日までの8日間、イタリア・トリノにて、8年ぶりとなるスペシャルオリンピックス冬季世界大会が開催されました。世界100の国から約1500名のアスリート・パートナーが参加し、日本からは7競技に32名のアスリート・パートナーが選出されました。

フロアボール(ユニファイドスポーツ®)、フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケートはトリノ市内で、スノーボード、アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーシューイングは郊外の雪山地域で実施され、選手団は二手に分かれて競技に臨みました。

アスリートたちは日頃の努力の成果を発揮し、それぞれが自らの限界に挑むなかで、素晴らしい記録やプレーを見せてくれました。スペシャルオリンピックスならではの助け合いの光景も多く、仲間同士や対戦相手と互いに認め合う姿から、スポーツの本質的な価値と深い感動を改めて実感しました。

国内合宿で培われた団結力に加え、地区組織、ファミリー、支援企業、自治体、医療チーム、そして職員の皆様の丁寧なサポートが、日本選手団一人ひとりの挑戦を力強く支えてくださいました。

開閉会式は芸術性に富み、印象的な演出で大会を彩りました。今大会を通じて特に感じたのは、LGBTQを含む多様性への深い理解が大会全体に根づいていたことです。スポーツには、すべての人を包み込み、認め合う社会を築く力があることを再認識するとともに、本大会は、これからのスポーツのあり方を見つめ直す貴重な機会となりました。

この経験を通じて、スペシャルオリンピックス日本としても、より多様性を尊重し、誰もが輝けるインクルーシブな社会の実現に向けた取り組みを、今後さらに推進してまいります。



### スペシャルオリンピックス日本 パートナー企業・団体



三井住友海上火災保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、SCSK(株)、新日本空調(株)、(株)セールスフォース・ジャパン